

WEEKLY SIGNAL

2019年11月15日(金) 1500号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	11/18(月)	11/19(火)	11/20(水)	11/21(木)	11/22(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 800	トシ	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000
財政他	△ 2,400	△ 2,000	+ 8,000	△ 12,000	+ 7,000
資金需給	△ 1,600	△ 2,000	+ 7,000	△ 13,000	+ 5,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		国庫短期証券発行・償還(1Y) 国債償還(変動15年)	国債発行(20年)	交付税特会借入・償還
オペ期日	CP等買入 補充供給				
	△ 100 + 400				
オペスタート	国債買入				
	+ 1,500				
(日本)			貿易収支(10月) 輸出(10月) 輸入(10月) コンビニエンスストア売上高(10月)	スーパーマーケット売上高(10月) 工作機械受注(10月)	全国CPI(10月) 日銀営業毎旬報告 (11月20日現在) 全国百貨店売上高(10月)
(海外)	米 クーブラント連銀総裁、講演 米 NAHB住宅市場指数 (11月)	米 NY連銀総裁、講演 米 住宅着工件数(10月)	米 FOMC議事要旨 (10月29-30日開催分)	クーブラント連銀総裁、講演 ミネアポリス連銀総裁、講演 ECB議事要旨 (10月23-24日開催分) 米 新規失業保険申請件数 (11月16日終了週) 米 景気先行指標総合指数(10月) 米 中古住宅販売件数(10月)	欧 ラガルドECB総裁、講演 ユーロ圏 総合PMI(11月) 米 シガン大学消費者 マインド指数(11月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、国債発行等要因を受けて前週末比1兆5,300億円減少の404兆6,500億円から始まった。週を通して概ね横ばい圏で推移し、404兆1,000億円を越えた。
無担保コールON物加重平均金利は、週を通して調達意欲が弱く、週初△0.065%から始まり、14日には△0.074%まで低下した。15日は積み最終日ということもあり、△0.063%に小幅上昇した。
ターム物は、1~2W物で△0.060~△0.020%の出が見られた。
内閣府が14日発表した7~9月期のGDP速報値は、前期比年率換算0.2%増で4四半期連続のプラス成長となった。消費増税前の駆け込み需要でプラス成長は維持したものの、冷夏の影響などが響き、小幅な伸びにとどまった。
来週の主な予定は10月の貿易収支(20日)、10月の全国CPI(22日)、海外ではNY連銀総裁講演(19日)、ラガルドECB総裁講演(22日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.003 ~ 0.000
TDB 3M	△0.250 ~ △0.180
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約9,400億円で、週間償還額(約6,900億円)を上回った。5・10日発行に当たり案件が増加し、活況なマーケットとなった。電気機器、食品、小売業態等から大型案件が見られた。発行残高は、先週末の20兆1,992億円から14日時点では約20兆2,200億円となった模様。発行レートは、0%近辺でほぼ横ばい推移であった。
来週の償還総額(11/18~11/22)は、4,700億円程度となっている。5・10日発行が予定されることから、活況なマーケットを予想する。発行レートは、引き続き浅いマイナスから0%近辺でのレンジと思われる。19日に、CP等買入れオベが4,000億円程度オファーされる予定である。

<TDB>

15日入札の3M870回債は、前回債の償還日が米国の休日であったこともあり海外勢の需要が高く、最高落札レート△0.1989%(前回債△0.1451%)、平均落札レート△0.2137%(同△0.1492%)と、前回債から大きく低下した。セカンダリー市場では3M物△0.22%~△0.20%程度、6M物は△0.20%程度で出合いがみられた。
来週は19日1Y物、22日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は、週前半は積み最終日を前に一時△0.2%台での取引が行われる等、強含む場面も見られたが、最終日の15日受渡しは△0.10%前後での出合いが中心となった。また、新積み期間となる18日受渡しは、短国3Mの発行もあり、△0.085%~△0.065%で推移した。SC取引では、20年170回債のbidが強く、週を通して△0.61%~△0.30%近辺で取引された。他2年403~406回債、5年138~141回債、10年336~356回債、20年164~169回債、30年59・62~64回債、40年9~12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。